

たまねぎレポート【366号】



平成30年4月26日

阪南青果株式会社

社内報

3月の天候は、南から暖かい空気が流れ込み、北・東・西日本でかなり高くなり、1946年の統計開始以来記録的高温となった地域が多い。降水量は全国的に多く、東日本の太平洋側では平年比163%で統計開始以来1位の多雨となった。日照時間は全国的に多く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり多かった。4月も気温は平年より高い日が多い。北海道の融雪は例年より早い。

気象庁の5～7月の3か月予報では、この期間の平均気温は、全国的に高い。降水量は、沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。月別予報は次の通り。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

6月、北日本では、期間の前半は数日の周期で天気は変わる。期間の後

半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。期間の後半は、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

3月の建値市場の野菜の入荷は、前年比多寡は市場に依りまちまちであった。平均単価は、前月までの高値が沈静化し、前年をやや下回った。市場別に入荷と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比93%、平均単価はkg¥199前年比99%。東京市場は前年比102%の入荷で、平均単価はkg¥259前年比99%。名古屋市場は前年比106%の入荷で、平均単価はkg¥229前年比97%。大阪本場は前年比110%の入荷で、平均単価はkg¥241前年比95%。福岡市場は前年比90%の入荷で、平均単価はkg¥171前年比100%となっている。

3月の建値市場の玉葱の販売量は、30,368トン前年比86%で、引き続き前年を下回った。名古屋以外の市場は前年比減で、価格は大阪本場以外は前年比安であった。市場別に入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比86%で、平均単価はkg¥83前年比98%。東京市場の入荷前年比91%、平均単価はkg¥126前年比98%。名古屋市場の入荷は前年比106%で、平均単価はkg¥99前年比99%。大阪本場の入荷は前年比76%で、平均単価はkg¥120前年比103%。福岡市場の入荷は前年比60%、平均単価はkg¥101前年比86%となっている。

日本農業新聞社の集計では、全国主要7地区の代表荷受7社の、3月の主

要野菜14品目の販売量は、89,853トン前年比99%(前月比122%)、平均単価はkg¥162前年比99%(前月比78%)で、昨年の秋からの野菜の異常高は落ち着いて来ている。販売量が前年比増となっている品目は、レタスが前年比29%増、ホウレンソウが16%増、ハクサイが9%増など6品目。前年比減となっている品目は、タマネギ・サトイモが前年比21%減、ニンジン・ピーマンが10%減など6品目。価格が前年比高となっている品目は、ダイコンが前年比30%高、ニンジンが27%高、ピーマンが17%高など9品目。前年比安となっている品目は、ジャガイモが前年比52%安、レタスが13%安、ホウレンソウが7%安など5品目となっている。因みにタマネギは前年比4%安。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷は、130,737トン前年比102%(前月比122%)。平均単価はkg¥259前年比99%(前月比83%)で総じて軟調に推移し、多くの品目が値下りした。主要品目で入荷が前年を上回った品目は、レタスが前年比125%、ホウレンソウが118%、ハクサイが110%など10品目。前年を下回った品目は、サトイモが前年比81%、ニンジンが82%、ナスが86%など5品目。販売単価が前年比高の品目は、ダイコンがkg¥116で前年比124%。キャベツがkg¥139で112%。ニンジンがkg¥197で110%など9品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥112で前年比50%、レタスがkg¥168で91%、トマトがkg¥356で96%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	130,737	102.4	121.6	259	99.1	82.5
た ま ね ぎ	11,078	90.8	107.6	126	98.1	104.1
は く さ い	7,959	110.0	63.9	135	104.3	82.3
キ ャ ベ ツ	17,665	101.4	149.4	139	111.8	55.2
だ い こ ん	12,250	100.6	137.3	116	124.0	67.1
に ん じ ん	6,034	81.5	96.0	197	109.8	110.7
ば れ い し ょ	7,767	103.7	104.8	112	49.6	86.8
ト マ ト	6,936	102.8	139.5	356	95.7	94.2
レ タ ス	9,702	125.4	177.2	168	91.1	46.4
き ゆ う り	6,760	103.1	135.1	307	108.2	83.9
ね ぎ	4,069	101.1	103.8	375	109.0	87.6
か ぼ ち ゃ	2,870	123.1	112.2	128	58.9	83.7
な が い も	1,002	130.5	133.2	307	63.9	91.1
れ ん こ ん	790	134.1	104.0	430	60.9	85.2
に ん に く	307	101.2	105.1	1,045	95.8	87.3

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、11,078トン前年比91%（前月比108%）で減少傾向が続いている。主力の北海物は、産地の春高期待ムードで出荷の後ズレ傾向が続き、入荷は8,259トン前年比91%、占有率は75%前年比1ポイントアップ。静岡物は1,442トンの入荷で前年比121%、

占有率は13%で前年比3ポイントアップ。長崎物は649トンの入荷で前年比81%、占有率は6%で前年比1ポイントダウン。平均単価はkg¥126前年比98%(前月比104%)、市況は横這いで推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥103前年比97%。静岡物がkg¥217前年比103%。長崎物がkg¥199前年比100%となっている。旬別の平均単価は、上旬がkg¥124、中旬がkg¥129、下旬がkg¥127で月前半は強含み、月後半は弱含みで推移した。

4月に入り、北海物の入荷は減少傾向となったものの、引き合いは鈍く、荷流れ傾向が続いた。府県物も生育の遅れで、出荷が後ズレし、終盤を迎えた静岡物は前年比倍増の入荷が続いたが、長崎、佐賀物は生育遅れで、入荷は大きく後ズレし、前年を下回った。上旬の入荷は前年比92%(北海93%、佐賀78%、長崎95%、静岡236%)となっている。荷動き鈍化で平均価格はkg¥108前年比2割安に落ち込んだ。中旬も北海物の順調な入荷に加え、遅れていた府県の早生物の出荷が本格化し、入荷は前年を上回り、需要は振るわず、北海、府県物とも市場在庫が増加した。中旬の入荷は前年比105%(北海95%、佐賀130%、静岡579%、長崎68%)で、平均価格はkg¥99前年比74%に値下がりした。此処に来て、佐賀、長崎の新物は引き合いが強まり、相場は値上がりに転じている。荷動き鈍化で軟調が続いていた北海物も、周辺市場向けの転送需要が動き出し、在庫が減少傾向となった。生育遅れで球流れが小粒であった府県の新物も、L中心の球流れに回復して来た。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、7,233トン前年比106%(前月比131%)で、前年比、前月比ともに増加した。主力は北海物で、入荷は6,490トン前年比107%、占有率は90%で前年比1ポイントアップ。静岡物は557トンの入荷で前年比134%、占有率は9%で前年比3ポイントアップ。愛知物は101トンの入荷で前年比37%、占有率は2%で前年比2ポイント

ダウン。平均単価はkg ¥99前年比99%(前月比95%)で、弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥86前年比98%、静岡物はkg ¥218前年比103%、愛知物はkg ¥206前年比107%となっている。

4月に入って、地場産地の愛知物の入荷が増加傾向となったものの、球伸びが今一つで、球流れはL中心で例年に比べ小振りであった。2L・Lはそれなりに引き合いはあるが、M・Sの売れ行きが悪く苦戦した。佐賀、長崎物の市況は、各地の市場で日々値下がりにしているが、地場産は地場市場に対する産地の指示価格が高く、仕切り値は10kgL ¥1,500、M ¥1,000で割高であった。北海物は、コスト高の在庫を抱え、価格維持の販売を続けるも、売れ行き鈍く、苦労している。月半ばになっても、北海物は需要が回復せず、在庫増に悩まされた。販売環境が厳しく、ホクレンの仕切値を値下げして貰ったものの、採算割れは解消出来ず、古くなった在庫もあり、早期処分を迫られた。新物は静岡が終了し、愛知が本番を迎えたが、肥大が進まず小振りで、M・Sの比率が高く、積極的な売り込みが出来なかった。此処に来て、地場物は極早生から普通早生に移行。球肥大が進み、2L・Lで80%前後を占める様になった。北海物の荷動きも回復に転じ、在庫は日々減少に向かっている。此の先、需給が均衡し、市況が安定することを期待している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は、3,259トン前年比76%(前月比102%)で、北海物は産地の調整で後ズレ、長崎は年明けの低温に依る生育遅れで、減少傾向が続いた。主力は北海物で入荷は2,195トン前年比68%、占有率は67%で前年比8ポイントダウン。長崎物は451トンの入荷で前年比80%、占有率は14%で前年比1ポイントアップ。兵庫の冷蔵物は320トンの入荷で前年比131%、占有率は10%で前年比4ポイントアップ。静岡物は167トンの入荷で前年比138%。平均単価はkg ¥120前年比103%(前月比も103%)で、北海、長崎物は前年比安、兵庫、静岡は前年比高となり、

総じて気配は保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥96で前年比99%、長崎物はkg ¥175で前年比94%、兵庫の冷蔵物はkg ¥150前年比111%、静岡物はkg ¥215で前年比103%。となっている。

4月に入ってから、上、中旬の玉葱の入荷は、前年比94%程度で少ない。北海物は前年比82%、佐賀物が前年比88%、長崎物だけが前年比138%で大幅増となっている。入荷が少ないにも拘わらず、荷動きは低迷し、平均価格はkg ¥100で前年比74%。前年の様な品薄感はなく、荷凭れ感が市場を支配した。此処に来て、北海物の荷動きも回復気味。高値の契約物は赤字縮小を目途にL大 ¥2,000~1,800で勉売。契約物以外は ¥1,700~1,500。長崎、佐賀、兵庫の新物は、日毎に入荷増の気配となり、いずれも弱保合。愛媛の冷蔵物は買手なく、加工向けに押し売りで捌いている。小売店の新物への移行が進み、量的に動きが回復している。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、3,423トン前年比60%（前月比160%）で前年比減、前月比増であった。主力は北海物で販売量は2,782トン前年比60%、占有率は81%で前年と同じ。長崎物が380トン前年比79%、占有率は11%で前年比3ポイントアップ。中国物が151トンで前年比87%、占有率は4%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg ¥101前年比86%（前月比93%）で総じては軟調で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥90前年比90%、長崎物がkg ¥176前年比91%。中国物がkg ¥86前年比104%となっている。

4月に入って、北海物の入荷が順調な上に、長崎、佐賀産地の早生物の出荷が本格化し、日量70トン前後の入荷があり、市況の急落を回避するため、早生物の一部を転送販売で捌いた。北海物は新物の出回り増に押されて荷動きが鈍く、在庫増の傾向が続いた。此処に来て、新物は長崎の入荷が減少し、佐賀主力の販売となっている。買参人の注文に銘柄指定があり、指定銘柄は優

位販売に努めているが、それ以外の品物は品質の良否を見定めながら、売り残さないように成り行き販売で捌いている。北海物は入荷減と荷動き回復で在庫は減少している。此の先、佐賀を主力に管内産地の入荷増が予想され、市場は先安ムードとなっている。1日～20日の販売量は前年比72%、平均単価はkg¥101前年比83%で販売環境は厳しい。

4月26日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷229トン、強保合

北 海 20kgDB2L¥1,900～1,650、L大¥1,900～1650、L ¥1,850～1,600、
M¥1,300～1,200。

佐 賀 20kgDB2L¥2,200～ L ¥2,700～2,500、 M ¥1,900～1,800、

佐 賀 10kgDB2L¥1,000～ L ¥1,200～

【太田市場】 入荷374トン、保合

北 海 20kgDB2L¥2,000～1,800、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,700～1,500、
M¥1,300～1,200。

佐 賀 20kgDB2L¥2,100～2,000、L ¥2,500～2,400、 M ¥2,300～2,200。

長 崎 10kgDB2L¥1,200～1,000、L ¥1,200～1,000、 M ¥800～700。

【名古屋北部】 入荷265トン、弱保合

北 海 20kgDB2L¥2,000～1,800、L大 ¥2,000～1,800、L ¥1,800～1,600、
M¥1,400～1,300。

愛 知 20kgNT2L¥2,100～2,000、L ¥2,100～2,000、 M ¥1,600～1,500。

愛 知 10kgDB2L¥1,200～1,100、L ¥1,300～1,200、 M ¥800 ～ 700。

【大阪本場】 入荷396トン、弱保合

北 海 20kgDB2L¥2,000～1,600、L大 ¥2,000～1,600、L ¥1,800～1,500、
M¥1,300～1,200。

長 崎 10kgDB2L¥1,300～1,100、L ¥1,400～1,200、 M ¥1,300～1,100。

佐 賀 20kgDB2L¥2,200～2,100、 L ¥ 2,500～2,400、 M ¥ 2,500～2,400。

佐 賀 10kgDB2L¥1,300～1,200、 L ¥ 1,400～1,200、 M ¥ 1,300～1,100。

兵 庫 10kgDB2L¥1,800～1,400、 L ¥ 1,800～1,300、 M ¥ 1,300～1,000。

大 阪 10kgDB2L¥1,100～1,000、 L ¥ 1,100～1,000、 M ¥ 800 ～ 700。

【福岡市場】 入荷145トン、 強保合

北 海 20kgDB2L¥2,200～1,800、 L大 ¥ 2,200～1,800、 L ¥ 2,000～1,800、
M¥1,500～1,300。

佐 賀 10kgDB2L¥1,400～1,100、 L ¥ 1,400～1,100、 M ¥ 1,000～ 700。

長 崎 10kgDB2L¥1,300～1,000、 L ¥ 1,300～1,000、 M ¥ 800 ～ 600。

供給(産地)の動き

北海道産地

越年在庫が少ないとのホクレン情報で、春高期待ムードが強まり、道東を始め各地で出荷が先送り傾向となり、4～5月売りに繰り越した在庫が意外に多かったが、全国的な在庫は昨年より少ない。各地の市場荷受けでは、4～5月販売用にホクレンと、事前契約の高値の手持ち品があり、価格維持に努めているものの、実勢相場との価格差が大きく、恨み節が聞こえる。此の冬は、降雪量が多く、融雪の遅れが心配されたが、3月の平均気温は平年比2℃も高く急速に雪解けが進んだ。ハウスでの育苗は、発芽、苗立ち共に順調で、定植作業は既に最盛期となり、平年より早く大型連休中には終わりそうだ。生産者の多くは、佐賀のペト病の罹病や2次伝染を凝視している。

府県産地

長崎の早生は、前年比6%の増反であったが、生育遅れで産地の出荷は後ズレしたが、現在では諫早地区以外はほぼ終了した。現在、出荷の主力は佐賀で、早生の出荷は最盛期に入っている。全県の作付面積は1,813haで前年比106%、作型は極早生15%、普通早生38%、中生44%、晩生3%で、

早生が過半数を占め5月出荷が最多となる。現在、心配されたべト病の二次伝染は沈静化しており、罹病は地区別・圃場別にかなりのバラツキがあるものの、面積的には昨年より少ない。露地早生の球肥大は今一つだが、中晩生の作柄は日々回復傾向にあり、平年作は確保出来ると見ている。直近の球流れは、2L14%(前年33%)、L53%(46%)、M19%(10%)、S8%(4%)、B6%(7%)で豊作だった前年に比べひと回り小振りである。

兵庫県淡路島の作付面積は、1,461ha前年比98%。圃場整備工事のための休耕田があり、工事地区で減反。品種別作付比率は、早生種が19%(前年は18%)、中生種62%(61%)、晩生種19%(21%)で、早生・中生が増加、晩生が減少傾向となっている。天候の影響で定植バラツキがあり、生育に影響している。早生系は一部を除き生育遅れで、多少の回復は見られるものの、平年作を下回る。中生系は生育に遅れはあるものの、順調な回復で平年作は確保されると見ている。晩生系は、未だ生育期間が長く、作柄は天候により変動するが、平年作が精々の予想。総体的には、いずれの作型も、草丈の伸びは順調だが、葉鞘が細く草勢に欠け、豊作は期待薄との見方が大勢である。

その他の中小産地では、愛知が6%の減反となった以外は、増反亦は前年並みで、全国的な栽培面積は増加傾向にあるものの、生育はいずれの産地もかなり遅れており、平年作が精々と予想されている。

外国産地

3月の輸入は速報値で、27,364トン前年比97%(前月比119%)で、予想を上回り、前月に続き増加傾向となっている。国別では中国が23,233トン前年比104%。ニュージーランドが1,878トン前年比49%。タイが734トン前年比115%。アメリカが439トン前年比127%。となっている。

中国、産地は甘肅省から順次雲南省に移行しているが、甘肅の残量が多く出荷は後ずれし、産地相場は大きく値下がりにしている。雲南の産地では、生産者価格がkg当たり¥6~7になり生産コストを大きく下回り、圃場廃棄止む無し

の状況にある。続く四川、河南省も球肥大が進まず、小粒傾向が予想されている。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$6.00 前後である。

ニュージーランド、天候不順で、生産減となり出荷は後ズレ傾向で、輸出も大幅減と聞かすが、日本向けは予想外に多く、中旬までの船積みは4,348トンになるというが、前年比36%の大幅減で、5月以降は更に少なくなる。日本向けの契約価格は、20kg・C&F・70~80 mm ¥1,250、75 mm up ¥1,300である。

5月の市況見通し

連休明けには、府県産地が出揃い、新物の出回り量が急増するが、北海物は急減する。需要は年間を通じて最多期となる。昨年の市況は、4月末より続落歩調となり、夏相場は安値基調となったが、現在の価格水準は、北海物は大幅安、府県の新物は前年並みか下回る水準にあり、連休明けには一段安の相場展開が予想されるものの、その後は北海物、輸入物の出回り減に加え、府県物の中晩生の作柄が前年を下回る見通しから、前年比高の予想。(了)